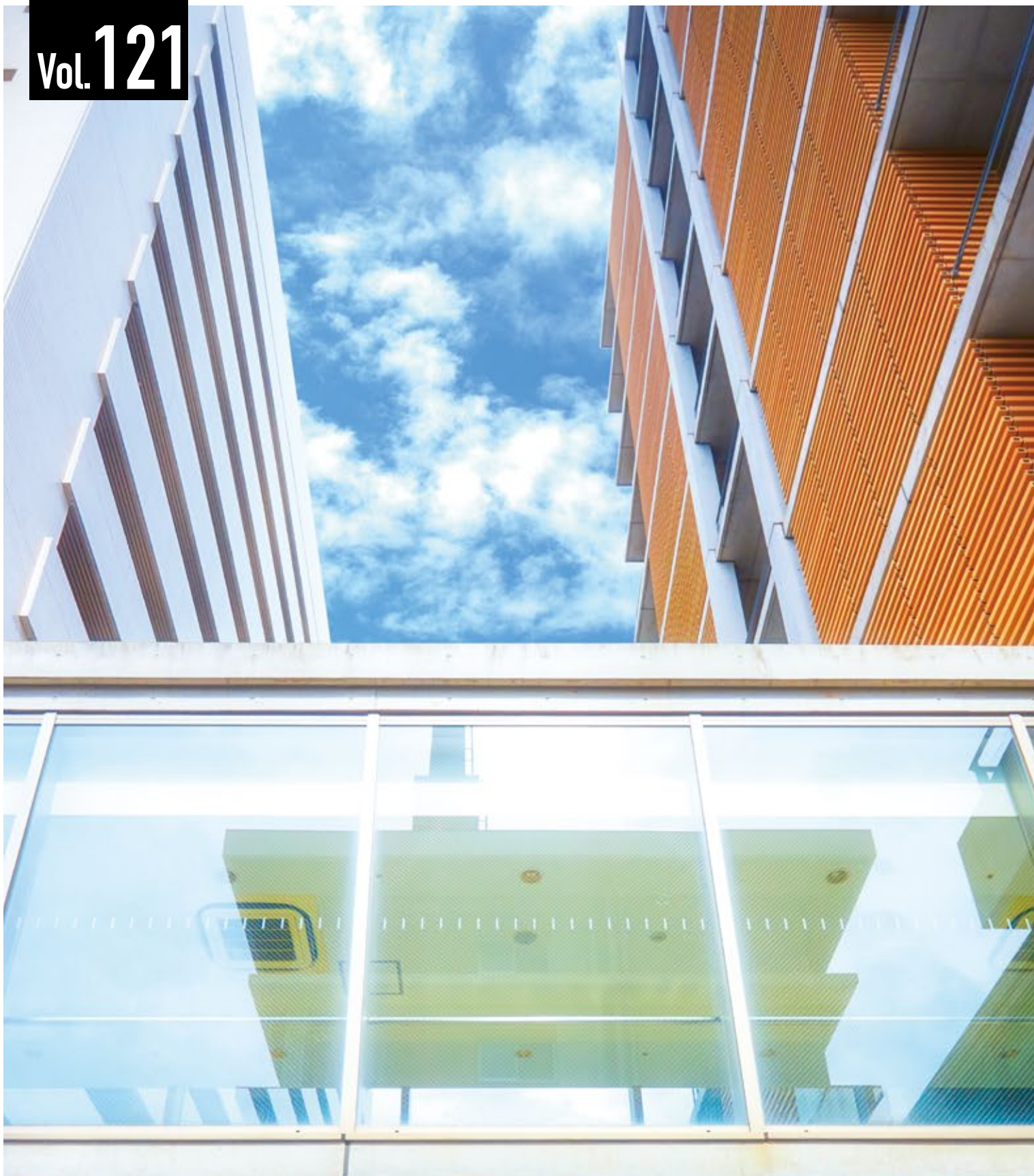


OSAKA
MEDICAL
COLLEGE

大阪医科大学学報

Vol. 121



特集

大学統合とさらなる国際化に向けて

大槻 勝紀 学長

研究室訪問

**親となる人々を支える看護で、
虐待予防につなげる**

佐々木 綾子 教授





Contents

3 特集

大学統合とさらなる国際化に向けて

教学改革を進めた4年間と、これからの医学教育

大槻 勝紀 学長

5 特集

令和の時代の看護教育とは

多職種連携と看護実践力の養成を目指して

看護学部 赤澤 千春 学部長

6

財務の概要（平成30年度決算の概要）

9

OMC TOPICS

- 01 オックスフォード大学医学部での濃密な留学体験
- 02 国際学会「WONCA APR 2019」における優秀発表賞受賞
- 03 スタンフォード大学教授による熟睡の習慣についての特別講演会
- 04 医学生理学クイズ日本大会(PQJ2019)で準優勝!!
- 05 岐阜大学医学教育開発研究センター主催全国ワークショップでの「シミュレーション教育法を用いて多職種教育を設計しよう」開催報告
- 06 『マンガでわかるオーラルフレイル』をサンスターグループと共同で寄贈
- 07 卒後臨床研修評価機構による第三者評価(認定更新)の受審結果
- 08 ～OMCの男女共同参画を考える～
- 09 令和元年度 永年勤続者表彰式
- 10 第15回全体集会開催
- 11 茨木市との連携協力に関する基本協定調印式
- 12 叙勲について
- 13 市民公開講座開催報告
- 14 白衣授与式
- 15 さつき会総会
- 16 ご献体者様への感謝状伝達式
- 17 ご遺骨返納法要
- 18 新入生歓迎会「炎祭(ひまつり)」開催
- 19 クラブ懇親会(兼西医体壮行会)開催
- 20 第8回FD&SD「教育・研究集会」
- 21 国際交流推進
- 22 第57回大阪母性衛生学会・学術集会 竹村喬記念奨励賞の受賞
- 23 大阪医科大学研究拠点育成奨励助成事業
「多職種連携教育とシミュレーション教育法」第7回講演会
- 24 臨床講堂棟・病院5号館他 解体工事安全祈願祭を挙行
- 25 看護学部広域統合(慢性期成人看護学領域)
- 26 安全管理体制の再編成(医療総合管理部)
- 27 看護学部棟学生交流企画「七夕飾り」
- 28 スパースマートホスピタル構想コンペ表彰式
- 29 第95回医学会総会・春季学術講演会
- 30 第4回高槻市民いきいき健康講座を開催しました
- 31 科研費応募奨励助成金 2019年度採択課題
- 32 研究拠点育成奨励助成金 2019年度採択課題

19

新任挨拶

21

研究室訪問

親となる人々を支える看護で、 虐待予防につなげる

看護学部 佐々木 綾子 教授

23

OMC NEWS

24

研究助成金の内定・採択について

25

寄付金関連報告

27

高槻中・高だより

28

大阪薬大だより

29

チーム大阪医大の
現場力 Vol.15

臨床研究センター

30

水彩画と私

病院ボランティアグループ **ふれあい**

大学統合と さらなる国際化に向けて

教学改革を進めた4年間と、これからの医学教育



大阪医科大学
学長
大槻 勝紀

2015年の学長就任時に、Innovation、Translational Research、Globalization、Social Contribution、Open Mind という5つの教学改革方針と行動目標を公表し、次々と改革を進めてこられた大槻 勝紀学長。2019年には学長に再任され、これからの大学統合や新たな医学教育にも目を向けておられます。大槻学長がこの4年間に取り組まれた教学改革とその成果についてお聞きするとともに、2021年に行われる大阪薬科大学との統合も含め、これからの医学教育について話を伺いました。

4年間の改革とその成果

◎ Innovation（今、行うべき改革）

学長就任後、5つの教学改革方針を公表。それぞれどんな改革をするのか、具体的な目指す目標を示し、教育戦略会議、研究戦略会議を月に一度開催して周知するところから始めました。また、教育については教育センターに専任の教員・事務員を配置、研究については大学院から研究支援センターを独立させました。今では教職協働の下、大学教育・研究を進める（PDCA）の原動力となっています。

成果の一つとして、第48回日本医学教育学会大会を本学で主催し盛会裡に終えることができました。また、国際認証と言われる医学教育分野別評価を受審し、本年2月に認定さ

れました。このことは国際認証を受けた大学同士は単位互換がし易くなり、交換留学生が増加することを意味しています。

新カリキュラムでは国際認証で必要な臨床実習期間を確保すると同時に、学生の中に研究手法を学べるように「学生研究」という科目を3年生から4年生にかけて設けています。さらに、2021年4月に大阪薬科大学との大学統合を控えており、新大学でのカリキュラムの特徴として多職種連携教育を充実させていきます。

◎ Translational Research（基礎から臨床研究の橋渡しと Only One の研究拠点の形成）

5年前まで競争的研究資金が獲得できていないという状況が続いていました。その原因として教員が積極的に科研費(科

学研究費助成事業)に応募しなかったことがあげられます。教授会で教員の再任の条件として科研費の獲得を必須とすることは、3～4年前に比べて採択率は2倍、獲得額は1.5倍と飛躍的に伸びました。その他、AMEDや文科省の私学助成の採択件数も増加。これらは、優れた研究者が多いことの証明であり、大学ランキングにも直結しています。今後も教育、研究面で私学ナンバーワンを目指していきます。

◎ Globalization (教育研究の国際化)

本学は1927年の設立経緯にブラジルやハワイなどへの移民団への医師派遣がありました。設立当初より国際化を意識しており、今、進めているのは交換留学での単位互換です。同じ国際認証を獲得している大学は70週の実習を実施しており、その一部を単位互換できるよう取り組んでいます。2019年は国立台湾大学と単位互換の協定を締結し、今後もハワイ大学、マヒドン大学、シンガポール大学などと単位互換を進めていく予定です。

◎ Social Contribution (社会的貢献活動と社会的責任)

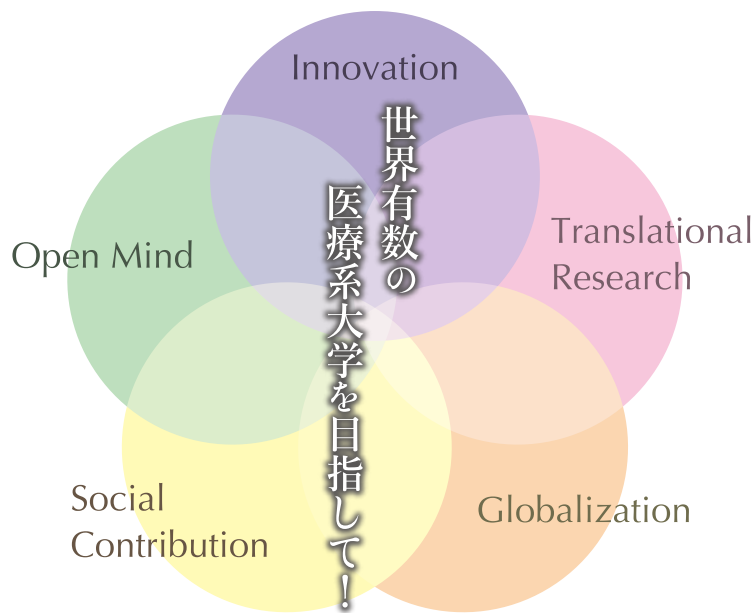
東日本大震災や熊本地震などの自然災害の際にJMATやDMATを派遣するだけでなく、地域医療の一貫として、兵庫県、高知県の僻地への医師派遣も行っています。

一方、本学のある高槻市との関係を強めるために、市民公開講座や小中学校への出前講義、食育・オーラルケアプロジェクトなど、サステナビリティ事業にも取り組んできました。

2017年には文部科学省の大型プロジェクトである私立大学研究ブランディング事業タイプAに採択され、本学・商工会議所・高槻市による産官学連携で健康寿命の延伸を目的とした「たかつきモデル」の構築も進めてきました。この事業は2019年度で終了となりますが、どのように展開していくかを産官学で検討しています。

◎ Open Mind (情報の発信と共有化)

教育や研究に関わる活動を「見える化」するため、学長室WEBサイトを作成し情報を公開しています。また、半期に



1度、教職員や学生を対象にした教育・研究集会を開催。教学改革方針や具体的な施策の実施状況を報告し、教職員や学生から意見を聞く場としています。

今後の主な取り組みについて

今後の主要な取り組みは2021年の「大学統合」とさらなる「国際化」だと考えています。

スムーズな統合に向け、9つの分科会を設置し、月に一度、分科会全体会議を開催し、大阪医科大学と大阪薬科大学の教職員が一堂に会して意見交換を行っています。医薬看が揃っている大学は少なく、本当の意味での多職種連携教育に取り組んでいきたいと考えています。また、本学では文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」に毎年2～3つのタイプが選定されていますが、大学統合後も多くの事業が採択されるように大阪薬科大学にも教育・研究戦略会議に出席いただき、協力して教育の質の転換に取り組んでもらっています。一般的に薬学部は医学部がない分野の知識を有しており、今後は薬学部と融合しての創薬での共同研究を進めていきたいと考えています。

一方、国際化においては、中山国際医学医療交流センターの組織を強化するとともに、2020年に大学院医学研究科修士課程【医科学専攻】を設置し、留学や外国人留学生の誘致を促すことで、広く国際化を目指します。

交流先大学との単位互換制度を導入し国際感覚にあふれた医療人を育てるだけでなく、近い将来、世界各地の学生が共に学ぶグローバル教育ができるよう、取り組みを続けていきます。

令和の時代の 看護教育とは

多職種連携と看護実践力の
養成を目指して

大阪医科大学看護学部

学部長 赤澤 千春



医科大学の看護学部として2010年に開設。看護学部は、今年10年目を迎えています。

また、2021年には大阪薬科大学との大学統合を控えています。医療が日々進歩し、看護の質の向上が求められるなか、新たに就任された赤澤 千春学部長に、これからの看護学部のあり方について語っていただきました。

医看融合教育で高評価

大阪医科大学看護学部は2010年に開設し、今年10年目を迎えています。ただし、看護師養成に関しては1929年に「大阪高等医学専門学校附属看護婦学校」として始めており、長い看護教育の歴史を有しています。また、博士課程・修士課程を持つ大学院の設立までを一気に進め、より質の高い看護師の育成に取り組んできました。

私は2014年に着任し、成人看護学の中の急性期教育を担当してきました。生命の危機的状況を扱う急性期は、医学的な面にも踏み込む難しい領域ですが、講義・演習から領域実習、統合実習を通して看護の質の向上に少しでも寄与できるよう努めてまいりました。これまでに医学部や附属病院と連携した様々な領域に通じた教員が教育を進めてきました。その成果の一つとして昨年実施した卒業生の就職先アンケートでは、各病院から今後も本学卒業生を「積極的に採用していきたい」、「現在と変わらず採用していきたい」と高い評価をいただいております。

これからの看護職に必要なもの

医療の現場は日々、進化しています。ロボット手術やAIなどテクノロジーの発展、そして社会は超高齢化へと変化し、看護職のあり方が今後のテーマになってくると考えます。また、2020年には厚労省によるカリキュラム改定が予

定されていますし、2021年には大阪薬科大学との統合も控えています。それらを踏まえて、教員が協力して現在のカリキュラムを評価しています。さらに、教育センターを中心に医薬看が一緒になった多職種連携教育カリキュラムの構築も進めています。

これからの看護職には、多職種と連携でき、課題解決や主体的に学習できることが求められます。本看護学部では、倫理観はもとより、課題解決、自己学習、協調性などの看護実践能力の基礎を身につけ、卒業後に自分たちで考え、学び、さらに発展していける能力を身につけるよう教授していきます。

教員や職員の皆さんと協力しながら、よりよい看護を実践できる人材育成を進めていきたいと考えています。



財務の概要(平成30年度決算の概要)

1 法人全体の決算概要

平成30年度は、6月の大阪府北部地震や9月の台風21号など例年になく頻度での自然災害の発生や1月の高槻市発注の排水管工事における高圧線誤切断を原因とした停電等、危機管理の重要性を改めて認識させられる1年でした。

事業活動収支においては、医療収入や経常費等補助金の増加により教育活動収入は増加したものの自然災害の影響を受け入院収入は予算に届きませんでした。また、人件費をはじめとした経費が大きく膨らみ、教育活動収支差額は前年より減少し10億49百万円となりました。特別収支においては、施設設備補助金が増加したことや有価証券売却益が発生したものの、電話交換機の更新に伴う資産処分差額等が発生したことにより、特別収支差額が前年並みの支出超過となりました。その結果、基本金組入前当年度収支差額は前年より16億85百万円減少し7億80百万円となりました。

資金収支においては、収入の部で前年度繰越支払資金、施設設備拡充資金引当特定資産取崩収入及びその他の収入は増加しましたが、借入金収入と資産売却収入が前年より減少しました。支出の部では人件費をはじめとした経費の増加に加え、資産運用支出と前期末未払金支出等のその他の支出が増加した結果、翌年度繰越支払資金は前年より33億92百万円減少し163億66百万円となりました。

貸借対照表においては、BNCT機器の設置完了等による有形固定資産の増加と施設設備拡充資金引当特定資産の積み増しにより特定資産は増加しましたが、長期借入金、その他の固定負債及び未払金の減少により、現金預金が前年より33億92百万円減少しました。

2 大阪医科大学の事業活動収支計算書

▶教育活動収支

教育活動収支における収入は前年より13億38百万円増加し431億58百万円となりました。中でも医療収入の増加額が最も大きく、前年より8億40百万円増加し、入院収入で2億12百万円、外来収入で6億69百万円増加しました。また、雑収入も退職金財団交付金の影響で前年より2億60百万円増加しました。

教育活動支出は前年より27億22百万円増加し426億

74百万円となりました。中でも医療材料費の増加の影響を受けて教育研究経費は前年より17億41百万円増加しました。人件費は前年より9億93百万円増加し205億40百万円となりました。

教育活動支出の増加額が教育活動収入の増加額を上回った結果、教育活動収支差額は前年より13億84百万円減少し4億83百万円となりました。

▶教育活動外収支

教育活動外収入は前年より12百万円増加し43百万円となりました。教育活動外支出は前年より9百万円増加し71百万円となりました。

教育活動外収支差額は前年より2百万円増加し28百万円の支出超過となりました。

▶特別収支

特別収入は前年より44百万円増加し88百万円となりました。これは施設設備補助金が増加したことが主な要因です。

特別支出は前年より2億79百万円増加し3億44百万円となりました。これは電話交換機の廃棄と近畿厚生局の適時調査指摘により社保・国保返還金が発生したことが主な要因です。

特別収支差額は前年より2億34百万円減少し2億55百万円の支出超過となりました。

▶基本金組入前当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額は前年より16億15百万円減少し1億99百万円となりました。

■ 総括

平成30年度決算は前年より教育活動収入は増加したものの、人件費や医療材料費の増加により教育活動支出が大きく増加したことと、特殊要因により特別支出も膨らんだことから基本金組入前当年度収支差額は前年より大きく減少する結果となりました。

今後の病院新本館の建築や大学統合、大阪薬科大学の移転用地確保等様々なプロジェクトを推進していくためには収益力の改善と安定化は不可欠であり、業績のV字回復を果たすために全教職員のご協力をお願い致します。

大阪医科大学（含む三島南病院）

平成30年度事業活動収支計算書（前年度対比）

勘定科目		30年度決算額	29年度決算額	差異	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	4,380	4,299	81
		手数料	237	222	14
		寄付金	676	626	49
		経常費等補助金	1,682	1,611	70
		付随事業収入	475	454	20
		医療収入	34,837	33,996	840
		入院収入	24,401	24,189	212
		外来収入	9,534	8,865	669
		雑収入	868	608	260
		教育活動収入計	43,158	41,819	1,338
教育活動収支	支出の部	人件費	20,540	19,546	993
		教育研究経費	19,965	18,223	1,741
		医療材料費	11,294	10,687	606
		管理経費	2,164	2,177	△ 13
		徴収不能額等	5	4	0
		教育活動支出計	42,674	39,952	2,722
		教育活動収支差額	483	1,867	△ 1,384
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	43	31	12
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	43	31	12
	支出の部	借入金等利息	71	62	9
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	71	62	9
教育活動外収支差額	△ 28	△ 30	2		
経常収支差額	455	1,836	△ 1,381		
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	88	44	44
		特別収入計	88	44	44
	支出の部	資産処分差額	226	65	160
		その他の特別支出	118	0	118
特別支出計	344	65	279		
特別収支差額	△ 255	△ 20	△ 234		
[予備費]	0	0	0		
基本金組入前 当年度収支差額	199	1,815	△ 1,615		
(参考)					
事業活動収入計	43,290	41,895	1,395		
事業活動支出計	43,090	40,079	3,011		

学校法人大阪医科薬科大学

平成30年度資金収支計算書（前年度対比）

収入の部			
勘定科目	30年度決算額	29年度決算額	差異
学生生徒等納付金収入	9,051	9,050	1
手数料収入	361	350	11
寄付金収入	713	646	67
補助金収入	2,647	2,392	255
国庫補助金収入	2,124	1,879	245
地方公共団体補助金収入	522	511	10
資産売却収入	948	2,052	△ 1,104
付随事業・収益事業収入	500	471	29
医療収入	34,837	33,996	841
入院収入	24,401	24,189	212
外来収入	9,534	8,865	669
その他の医療収入	929	978	△ 49
介護保険事業収入	187	183	4
受取利息・配当金収入	114	96	18
雑収入	1,062	731	331
借入金等収入	0	4,400	△ 4,400
前受金収入	3,706	3,709	△ 3
その他の収入	10,086	7,547	2,539
資金収入調整勘定	△ 10,466	△ 10,119	△ 347
前年度繰越支払資金	19,758	14,601	
収入の部合計	73,321	69,926	3,395
支出の部			
勘定科目	30年度決算額	29年度決算額	差異
人件費支出	23,198	22,278	920
教育研究経費支出	18,770	17,394	1,376
教育研究経費支出	6,675	5,961	714
医療経費支出	12,094	11,433	661
医療材料費支出	11,315	10,671	644
管理経費支出	2,129	2,021	108
借入金等利息支出	71	62	9
借入金等返済支出	893	429	464
施設関係支出	1,660	2,684	△ 1,024
設備関係支出	4,091	3,639	452
資産運用支出	5,710	3,686	2,024
その他の支出	8,133	6,031	2,102
資金支出調整勘定	△ 7,704	△ 8,060	356
翌年度繰越支払資金	16,366	19,758	△ 3,392
支出の部合計	73,321	69,926	3,395

*単位：百万円
 *百万円未満を切り捨てしているため、
 差異、増減、合計と一致しない場合があります。

平成30年度事業活動収支計算書（前年度対比）

勘定科目		30年度決算額	29年度決算額	差異
教育活動収支	収入の部			
	学生生徒等納付金	9,051	9,050	1
	手数料	361	350	11
	寄付金	724	652	72
	経常費等補助金	2,520	2,370	150
	付随事業収入	500	471	29
	医療収入	34,837	33,996	841
	入院収入	24,401	24,189	212
	外来収入	9,534	8,865	669
	雑収入	1,061	731	330
教育活動収入計	49,057	47,623	1,434	
支出の部	人件費	23,323	22,334	989
	教育研究経費	22,139	20,120	2,019
	教育研究経費	10,066	8,671	1,395
	医療経費	12,072	11,449	623
	医療材料費	11,294	10,687	607
	管理経費	2,405	2,378	27
	徴収不能額等	140	4	136
	教育活動支出計	48,008	44,837	3,171
	教育活動収支差額	1,049	2,785	△ 1,736
	教育活動外収支	収入の部		
受取利息・配当金		114	96	18
その他の教育活動外収入		0	0	0
教育活動外収入計		114	96	18
支出の部				
借入金等利息		71	62	9
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	71	62	9	
教育活動外収支差額	42	34	8	
経常収支差額	1,091	2,820	△ 1,729	
特別収支	収入の部			
	資産売却差額	43	0	43
	その他の特別収入	156	47	108
	特別収入計	199	47	152
	支出の部			
資産処分差額	392	402	△ 10	
その他の特別支出	118	0	118	
特別支出計	510	402	△ 108	
特別収支差額	△ 310	△ 354	44	
基本金組入前 当年度収支差額	780	2,465	△ 1,685	
基本金組入額合計	△ 2,027	△ 1,943	△ 84	
当年度収支差額	△ 1,246	522	△ 1,768	
前年度繰越収支差額	△ 24,358	△ 24,880	522	
翌年度繰越収支差額	△ 25,605	△ 24,358	△ 1,246	
(参考)				
事業活動収入計	49,371	47,767	1,603	
事業活動支出計	48,590	45,302	3,287	

平成30年度貸借対照表（前年度対比）

資産の部		30年度決算額	29年度決算額	増減
勘定科目				
固定資産		81,681	77,960	3,721
有形固定資産		57,244	55,530	1,714
土地		15,199	15,199	0
建物		25,444	25,752	△ 308
構築物		590	624	△ 34
教育研究用機器備品		10,609	8,814	1,795
管理用機器備品		664	634	30
図書		4,268	4,287	△ 19
車両船舶		1	1	0
建設仮勘定		466	215	251
特定資産		22,730	20,604	2,126
第3号基本金引当特定資産		2,286	2,186	100
退職年金引当特定資産		347	336	11
施設設備拡充資金引当特定資産		16,055	14,346	1,709
退職給与引当特定資産		1,360	1,402	△ 42
教育・研究振興基金引当特定資産		32	14	18
盛基金特定資産		3	3	0
田中基金特定資産		15	14	1
四方基金特定資産		406	405	1
減価償却引当特定資産		2,104	1,800	304
教育研究環境整備充実引当特定資産		117	95	22
その他の固定資産		1,705	1,825	△ 120
ソフトウェア		153	175	△ 22
電話加入権		4	4	0
施設利用権		0	0	0
有価証券		462	462	0
長期貸付金		829	795	34
保証金		141	137	4
基金		115	250	△ 135
流動資産		23,708	29,731	△ 6,023
現金預金		16,366	19,758	△ 3,392
有価証券		100	904	△ 804
未収入金		6,895	6,616	279
貯蔵品		107	86	21
仮払金		8	14	△ 6
前払金		228	2,350	△ 2,122
資産の部合計		105,389	107,692	△ 2,303
負債の部				
勘定科目				
固定負債		17,521	19,199	△ 1,678
長期借入金		7,558	8,435	△ 877
退職給与引当金		8,479	8,354	125
長期未払金		1,482	2,409	△ 927
流動負債		11,548	12,954	△ 1,406
短期借入金		877	893	△ 16
未払金		6,282	7,698	△ 1,416
前受金		3,706	3,709	△ 3
仮受金		0	0	0
預り金		682	652	30
負債の部合計		29,070	32,153	△ 3,083
純資産の部				
勘定科目				
基本金		101,924	99,896	2,028
第1号基本金		96,199	94,850	1,349
第3号基本金		2,286	2,186	100
第4号基本金		3,439	2,860	579
繰越収支差額		△ 25,605	△ 24,358	△ 1,247
翌年度繰越収支差額		△ 25,605	△ 24,358	△ 1,247
純資産の部合計		76,319	75,538	781
負債及び純資産の部合計		105,389	107,692	△ 2,303

01 オックスフォード大学医学部での濃密な留学体験

“That was very good, Aki!”

英国オックスフォード大学附属John Radcliffe病院に来てから2週間、初めて患者さんを一人で診察し指導医に報告したとき、かけてもらった言葉です。僕は2019年3月、医学教育振興財団の給付留学生に選ばれ、オックスフォード大学医学部での1か月の臨床実習を通して英語での問診、身体診察など濃密な経験を得ることができました。オックスフォード大学の医学部生は、4年生から患者さんの問診、身体診察、採血など、日本の研修医がやるようなことはなんでもこなします。同じ診療チームの4人のオックスフォード大生とは1か月を共に過ごし、将来の夢など様々なことについて語り合い、最後には送別会まで開いてもらい、一生の友達になりました。期間中、オックスフォード大学を構成するカレッジの一つであるGreen Templeton Collegeに居住し、たくさんの学生と親交を結ぶことができました。「ハリー・ポッター」に出てくるような歴史的建造物の中で勉強し、思索にふけることは、他では得難い贅沢な体験でした。留学中、奮闘する僕を、周りのオックスフォード大生は親身になって助けてくれました。文化は違えど、積極的な姿勢は必ずその国の人に伝わり、味方になってくれることを確かめられたのは、大きな自信になりました。終了時、指導医に実習評価表にいただいた「Very motivated and active」という言葉は僕にとって今回の留学の何よりの勲章です。



を確かめられたのは、大きな自信になりました。終了時、指導医に実習評価表にいただいた「Very motivated and active」という言葉は僕にとって今回の留学の何よりの勲章です。

03 スタンフォード大学教授による熟睡の習慣についての特別講演会

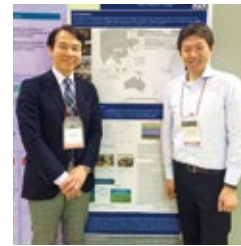
2019年4月16日(火)に、大阪医科大学歴史資料館で、西野精治教授による熟睡の習慣についての特別講演会が行われました。西野先生は本学を卒業されており、現在スタンフォード大学医学部精神科教授、同大学睡眠生体リズム研究所(SCNL)所長でいらっしゃいます。また、先生の第1作目となる『スタンフォード式最高の睡眠』がベストセラーになりましたが、今回の講演会は第2作目となる『スタンフォード大学教授が教える熟睡の習慣』の出版記念ということで、母校である本学で開催していただきました。当日は、多くの教授陣や医療関係者の方々、他大学も含めた学生らが講演会に集まりました。講演会自体は、西野教授と聴衆の質疑応答スタイルで、会場は大変盛り上がりしました。私は、学生スタッフとしてこの講演会のポスター作成や司会兼進行役を務めさせていただきましたが、私以外の3名の学生の協力もあり、講演会を無事終えることが出来ました。



02 国際学会「WONCA APR 2019」における優秀発表賞受賞

家庭医療の国際学会「WONCA APR 2019」(5月15-18日・京都国際会館)における僕のポスター発表が“Outstanding Student Activity Award”を受賞しました。今回は僕が部長を務め5年以上活動してきた大阪医科大学国際交流部の活動について発表させていただきました。国際交流部は毎年大阪医科大学に滞在する世界各国からの交換留学生(昨年度実績6大学8校)との観光や交流行事を主催し、大阪医科大学との交流を促進する部活です。学生がツアーガイドとなって英語で日本文化を解説することは大阪医科大学と留学生双方に利益があること、低学年から国際交流活動を体験できる意義、日本に居ながらにして毎月のように他国からの留学生と交流することによりミニ留学体験ができる意義などを説明させていただきました。

会場では、たくさんの世界各国からの参加者から、大阪医科大学への交換留学について問い合わせを受けました。これにより、さらに交流の和が広がればこんなにうれしいことはありません。



WONCA APR 2019会場にて
総合診療科鈴木教授(左) 井上鐘哲(右)

04 医学生理学クイズ日本大会(PQJ2019)で準優勝!!

2019年5月26日に東京慈恵会医科大学で行われたPQJ 2019 (医学生理学クイズ日本大会 以下PQJ)で、私と3年光成絢香のチーム[光合成]が準優勝を勝ち取ることができました。このPQJは医学を学ぶ全国の大学生が集まり、その生理学の知識をクイズで競い合って1位を決める大会です。大会の終了後には親睦パーティーがあり、各地から集まった医学生と親交を結びました。生理学は人体の正常の機能を学ぶ学問であり、人がかかる病気は何らかの形でその正常な機能が損なわれた状態です。つまり医学生は各疾患を学ぶ上で生理学を深く理解する必要があります。そこで私が部長を務める大阪医科大学医学クイズ研究会では、この大会にむけて学年問わず一緒に勉強することで生理学の素晴らしさを再認識することができました。この大会は今回で4回目で参加大学も全国で増えてきています。生理学をこんなにも楽しんで学べる機会は全国の医学生にとってとても貴重なものでこれからもPQJの素晴らしさを全国の医学生に発信していきたいです。



05 岐阜大学医学教育開発研究センター主催全国ワークショップでの「シミュレーション教育法を用いて多職種教育を設計しよう」開催報告

2019年5月25日に岐阜大学医学教育開発研究センターで行われた「第72回医学教育セミナーとワークショップ」で、本学医学部、看護学部および大阪薬科大学共同で「シミュレーション教育法を用いて多職種連携を設定しよう」というワークショップを主催致しました。

このワークショップは、2年前から本学の研究拠点育成プロジェクトである「シミュレーションを活用した多職種連携教育支援体制の構築～医看薬融合教育のユビキタスな普及を目指して～」で行ったシミュレーション教育法講習会をベースにしております。当日は、私駒澤と看護学部土肥美子准教授、大阪薬科大学角山香織准教授がインストラクターとして活動し、日本全国の医療教育者28名(医歯薬看など)が受講されました。本学からの教育情報発進を医看薬合同で行えたことは意義があると考えます。大阪医科大学が多職種連携教育において全国をリードできるように今後ともこのような教育情報発進を継続したいと思えます。



06 『マンガでわかるオーラルフレイル』をサンスターグループと共同で寄贈

2019年5月27日(月)に高槻市庁舎2階の市長室におきまして、昨年12月に本学看護学部講堂で講演をされた飯島勝矢先生(東京大学高齢社会総合研究機構)とサンスターグループ顧問で日本歯科医師会元会長の久保満男先生による著作『マンガでわかるオーラルフレイル』(主婦の友社)を高槻市へ寄贈しました。

本書籍は、本学が推進している研究ブランディング事業「健康寿命をのばす たかつきモデル」と大きく関係していることから、高槻市民への啓発活動の一環として、高槻市内の小中学校及び図書館・公民館等での活用を目的としたものです。

サンスターグループからは中村正一シニアアドバイザーと金子孝之産学官推進プロジェクトリーダーが、本学からは大槻勝紀学長が出席し、濱田剛史市長、樽井弘三教育長、西田誠総合戦略部長と面談しました。

なお、大槻学長による推薦文もつけており、これを機に、幅広い年代にオーラルフレイルの理解が浸透することを期待しています。



左から
大槻学長、濱田市長、
中村シニアアドバイザー

07 卒後臨床研修評価機構による第三者評価(認定更新)の受審結果

本院は、NPO法人卒後臨床研修評価機構による第三者評価において同機構が定める認定基準に達しているとの認定を受けており、本年3月7日に認定更新のための訪問調査を受審しました。

前回の調査時に指摘があった課題について改善を行ったことなどが評価され、今回新たに4年間の認定を受けることができました。また全体の評価として、指導医だけでなく指導者などの医師以外の職員も積極的に研修医への指導に参画しているとの評価をいただき、このことは、病院全体として研修医を育てようという皆様のご協力の賜物と心より感謝いたしております。

次回の認定更新までに検討しなければならない課題や2020年の臨床研修制度改訂による検討事項などいくつかの課題はありますが、今後も臨床研修システム及び研修プログラムの改善を推し進め、さらなる臨床研修病院としての質の改善・向上を図って参ります。

今後ともご指導ならびにご協力を賜りますようお願い申し上げます。



訪問調査受審証受領風景



08 ～OMCの男女共同参画を考える～

女性医師支援センター主催の第1回交流会を令和元年6月19日(水)に開催しました。当日は若手医師や医学生など予想を上回る男女22名が参加し、会場は満席となりました。冒頭、神崎センター長からの挨拶に続き、参加者全員の自己紹介が行われると会場の雰囲気は一気に和みました。次に事務担当者から保育室の利用方法や育児支援制度の説明があり、特に「病児保育」に関して活発な意見交換が行われ、保育士と小児科医から病児の受入れ手続きについて説明があると、参加者からは病児保育の難しさは理解できるものの解決に向けて柔軟な対応を希望するとの声が多く出されました。今回の交流会は医師のお子様の参加もあり会場の雰囲気も良く又軽食をとりながら和気あいあいとした中でお互いの意見を交換することができました。今後はセンター開設1周年記念行事として11月5日(火)に記念講演会を開催する予定です。男女を問わず、皆様のご参加をお待ちしています。



日時：2019年6月6日(木) 午前10時
場所：別館（歴史資料館）大学院多目的講義室

勤続35年11名、勤続20年30名の永年勤続者表彰式が行われ、植木實理事長より一人ひとりに表彰状と記念品が授与されました。

勤続35年

病院看護部	江口	博美
中央放射線部	大上	和宏
病院看護部(三島南)	大岸	英子
保育室	奥田	敬子
薬剤課	小原	章裕
医事課(三島南)	澤田	利恵子
法医学	鈴木	廣一
病院看護部	東方	豊子
購買・物流部	中尾	基克
病院看護部	久永	美智子
病院看護部	由藤	久美子

(50音順)



勤続20年



病院看護部	阿部	貞子
眼科学	池田	恒彦
病院看護部	井出	百合子
栄養課	小保方	信喜
病院看護部	河口	美幸
大学院医学研究科	金	徳男
病理部	栗栖	義賢
輸血室	河野	武弘
LDセンター	小林	みつ子
総務部付	齋藤	美彩
病院看護部	杉浦	由紀

内科学Ⅲ	宗宮	浩一
内科(三島南)	瀧井	道明
医学教育センター	瀧谷	公隆
病院看護部(三島南)	田中	真矢
病院看護部	塚本	智恵
病院看護部	西	絵梨香
病院看護部	錦辺	恵美子
病院看護部	西村	みどり
病院看護部	番	聡子
病院看護部	廣瀬	基子
内科学Ⅲ	星賀	正明

病院看護部	松下	展子
病院看護部	松野木	千鶴
図書館課	村上	公子
中央放射線部	森永	泉美
病院看護部	安田	有紀子
病院看護部	山岡	ひとみ
病院看護部	山下	知美
病院看護部	和田	里美

(50音順)

10 第15回全体集会開催

第15回全体集会在、2019年6月10日(月)午後5時から臨床第 I 講堂において「学校法人大阪医科薬科大学の現状と展開」をテーマに開催されました。

当日は、450名を超える来場者が、場外に溢れるほどの大盛況で、翌日から解体工事を控えた臨床講堂棟の最後を飾るに相応しい集会となりました。

集会は、植木實理事長の挨拶の後、以下の次第で進行了ました。

- 1 法人の運営と財務状況について 植木理事長
- 2 高槻中学校・高等学校の
新キャンパス整備の完成について 岩井常務理事
- 3 両大学の統合予定について 濱岡理事長補佐・副理事長
- 4 関西BNCT共同医療センターの
医師主導治験と治療開始予定について 小野センター長
- 5 病院新本館の基本設計並びに工事予定について 佐野副理事長 内山病院長
- 6 まとめ（将来構想を含めて） 植木理事長

約1時間にわたる、これらの重要事項の報告の後、植木理事長の提唱により、今日でお別れとなる臨床講堂棟への感謝と本法人の今後の一層の発展への願いを込めた一本締めが行われ、会場を埋め尽くした教員・職員・学生らも思いを一つにしていました。



11 茨木市との連携協力に関する基本協定調印式

2019年5月16日(木)午前11時から、茨木市役所において、茨木市と本法人との連携協力に関する基本協定締結式が開催されました。

締結式は、茨木市から福岡市長、河井副市長、秋元企画財政部長、北川健康福祉部長、北達健康福祉部理事、本法人からは植木理事長、佐野副理事長、門田法人事務局長、木村病院事務部担当部長の出席のもとで行われました。開会が宣言された後、出席者紹介が行われ、福岡市長と植木理事長のご挨拶の後、協定が締結されました。その後、バックパネルの前で記念撮影が行われ、閉会となりました。

本協定により、茨木市と本法人が教育・研究・医療・保健・健康づくりなどの様々な分野において、積極的に連携を行い相互に協力することにより、双方の発展・充実に寄与していくことになりました。



12 叙勲について

令和元年「春の叙勲」で、永年の教育研究の功勞に対し、清金 公裕名誉教授・森 浩志名誉教授が瑞宝小綬章を受章されました。

○清金公裕 名誉教授

大阪医科大学 卒業
大阪医科大学大学院医学研究科
博士課程単位修得 退学
医学博士の学位授与
大阪医科大学助教授（皮膚科学）
大阪医科大学教授（皮膚科学）
現在、大阪医科大学名誉教授
在職中に、大阪医科大学図書館長、
大阪医科大学附属病院副院長、
学校法人大阪医科大学評議員を務める



○森 浩志 名誉教授

大阪大学医学部医学科 卒業
大阪大学大学院医学研究科 修了
医学博士の学位授与
愛媛大学助教授医学部
大阪大学助教授医学部
大阪医科大学教授（第二病理学）
現在、大阪医科大学名誉教授
在職中に、大阪医科大学実験動物センター長を務める



13 市民公開講座開催報告

●第1回市民公開講座 2019年6月15日(土) 新講義実習棟P101

『かゆみ疾患治療新時代～アトピー性皮膚炎と蕁麻疹を中心に～』

皮膚科学教室 谷崎 英昭

『深く知ろう!～アトピー性皮膚炎のお薬～』

病院薬剤部 片岡 佑太

『かゆみとの上手なつきあい方』

病院看護部 赤松 志麻



谷崎講師

当日は、38名の方にご来場いただきました。

●第2回市民公開講座 2019年7月6日(土) 新講義実習棟P101

『うちの子、もしかして学習障害?～でも、学習障害って何だろう?』

小児高次脳機能研究所 福井 美保

『学習障害を持つお子さんが薬剤を使用する際の注意点』

病院薬剤部 阪口 久美子

『“ボク、こんなふうに考えているよ!”』

学習する力を出し切れない子どもたちの思い、
のぞいてみましょう。』

病院看護部 水島 道代



福井講師

当日は、43名の方にご来場いただきました。

14 白衣授与式

4月26日に臨床第I講堂において白衣授与式が執り行われました。本授与式は、クリニカル・クラークシップに先立ち、医学部医学科5年生に医療現場に入る自覚を持ってもらうことを目的に行っています。

授与式では、大槻学長、河田学長補佐からの挨拶の後、大槻学長、内山病院長、河田学長補佐から学生に「白衣」と「Student Doctor認定証」が授与されました。同認定証は医学的知識、基本的診療技能・態度を評価する共用試験に合格し、第5学年に進級した学生に対し、授与されるものです。白衣とStudent Doctor認定証授与後、内山病院長から医療人として、自覚と責任感を持って行動するよう激励の言葉があり、学生代表から宣言書に基づく6つの宣言がありました。学生たちは、5月から開始される臨床実習への決意を新たにしました。

なお、臨床講堂棟の取り壊しに伴い、臨床第I講堂で執り行われる白衣授与式は本年度で最後となりました。



15 さつき会総会

生前委託登録者の総会（さつき会）が5月9日(木)午後2時より、本学の看護学部講堂にて開催されました。

総会当日は、さつき会会員約180名の出席を賜り、平成30年度成願者の御霊への黙祷を捧げたのち、大槻勝紀学長、小高恭会長の挨拶、前年度篤志献体活動報告、霊群(たまむら)住職の講話、皮膚科学教室の森脇真一教授から「かゆい皮膚病-その原因と対策」と題した特別講演が行われ、盛会のうちに閉会いたしました。

小高恭会長



16 ご献体者様への感謝状伝達式

総合研究棟第2会議室にて、医学の発展のために平成30年度に献体していただいた29名の方に対し、文部科学大臣からの感謝状伝達式を5月22日に執り行いました。

御家族24名のご臨席を賜り、大槻勝紀学長、解剖学教室近藤洋一教授が出席し、大槻学長が深い謝意を述べ、文部科学大臣の感謝状を伝達いたしました。

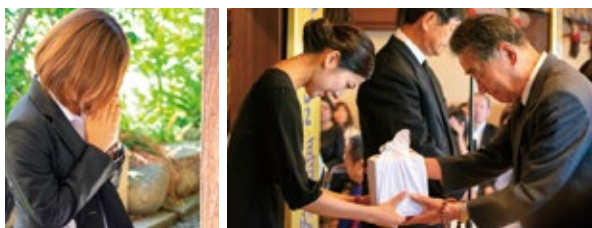


17 ご遺骨返納法要

文部科学大臣からの感謝状伝達式の後、本学菩提寺の光松寺にて、2018年度に献体していただいた29名の方の御家族33名のご臨席を賜り、ご遺骨返納法要が執り行われました。

大槻勝紀学長、解剖学教室教員、医学部3年生が出席し、解剖学教室の近藤洋一教授が祭文を読み上げました。光松寺の霊群（たまむら）住職の読経のなか、献体者様とその御家族に感謝の意を表しました。

人体構造実習をした学生から御家族にご遺骨を返納し、大槻学長が本学からの感謝状をお渡ししました。



18 新入生歓迎会 「炎祭(ひまつり)」開催

校友会主催の新入生歓迎会「炎祭(ひまつり)」が、6月1日(土)に開催されました。

午前中はさわらぎキャンパス体育館でフットサル大会が行われました。午後からは本部キャンパス東門広場に会場を移し、佐浦隆一医学学生生活支援センター長の挨拶に始まり、各部活による模擬店の出店、学生会館（文化部室棟）内での、管弦楽部、軽音楽部の演奏、グリー部の合唱、学生イベント（ゲームや仮装など）が行われました。本部キャンパスでの開催は、2015年以来4年ぶりとなりますが、引退した先輩たちが立ち寄る姿も多く見られ、有意義な学生交流の場となりました。終日晴天に恵まれ、午後8時頃まで多くの学生で賑わいました。



19 クラブ懇親会 (兼西医体壮行会)開催

6月13日(木)、本館・図書館棟地下食堂において、本学クラブ間の懇親をはかり、西日本医科学学生体育大会（西医体）に参加する体育会系クラブを激励する、「クラブ懇親会（兼西医体壮行会）」が開催されました。

校友会会長の市橋雅斗さん（医学部4年生）が司会・進行を行い、仁泉会理事の中野隆史先生からご挨拶と寄付の贈呈があり、西医体理事の高須朗先生からご挨拶と乾杯のご発声後、全38クラブから活動報告や西医体に向けた決意表明がありました。多忙の中、学長の大槻勝紀先生が駆け付け、激励のご挨拶をいただきました。その後、看護学学生支援センター委員の津田泰宏先生からの激励の言葉をもってお開きとなりましたが、学生たちは更に1時間ほどその場に滞在し、親睦を深めており、有意義なクラブ交流の場となりました。



20 第8回FD&SD 「教育・研究集会」

臨床第I講堂において、第8回FD&SD「教育・研究集会」を5月15日に開催しました。

教職員・学生を含め、総勢246名が参加し、大槻勝紀学長から本年度の学長行動目標として、「大学統合（大阪医科大学・大阪薬科大学）」について説明がありました。続いて、河田了学長補佐から「第113回医師国家試験結果等について」「単位互換について・GPAについて」「分野別評価受審結果・大学基準協会大学評価について」、矢野貴人医学研究科大学院委員長から「医学研究科医科学専攻（修士課程）について」、廣瀬善信入試・広報統括責任者から「入学志願者状況について」、小野富三人学長補佐から「競争的資金獲得の推移」、玉置淳子教授から「ブランディング事業の進捗状況について」、植野高章中山国際医学医療交流センター長から「教育・研究の国際化推進について」、道重文子前看護学部長から「看護学部の現状について」説明がありました。教員・学生から複数の質問があり、活発な意見交換が行われると共に、実施したアンケートにおいて多数の意見が寄せられました。今後も大槻学長の教学改革方針のもと、学生及び教職員への情報共有と意見交換のために、本集会を継続して実施する予定です。



21 国際交流推進

本学では、2017年度より大槻勝紀学長の強いリーダーシップのもと、国際化を推進し、国際交流の質の転換を図っています。今年度は、医学部と看護学部の国際交流の質の拡充を目標に掲げ、中山国際医学医療交流センターと医学教育センター、看護学実践研究センターが協同し、**1** 医学部単位互換、**2** 看護学部交流協定の拡充、**3** 本学における国際化推進の啓蒙を中心に活動を進めています。

1 国立台湾大学医学部との単位互換協定締結

2019年4月25日に国立台湾大学医学部と単位互換協定を締結しました。医学部教育においては、各国カリキュラムの違いから単位互換は難しいものですが、医学教育センター及び中山国際医学医療交流センターと台湾大学医学部とで協議を重ね、協定締結に至りました。台湾大学医学部5、6年生開講科目「International Clinical Elective I、II」と本学6年生開講科目「選択臨床実習2A(2W)、2B(2W)、2C(4W)」で、2020年4月より単位互換をスタートさせます。台湾大学とは2016年に交流協定を結び、双方の学校で医学部学生の「臨床実習」における交換プログラムを毎年、実施してきましたが、この新たな締結を基に、アジアをけん引する次世代医療者育成について、教育・研究分野での連携をさらに強固なものにします。

2 ミネソタ州立大学マンケート校との交流協定締結

新たな交流協定をミネソタ州立大学と2019年5月に締結しました。隔年で相互に学生を派遣し、主に看護学部での交流を行います。本年度は8月から9月にかけて、本学看護学部2年生から4年生の3名がマンケート校を2週間の予定で訪問し、交流を開始しました。この交流を礎として、単位認定等、交流の質を深めていきます。

3 国際シンポジウム、国際化推進にむけた講演会の開催

国際化のさらなる推進にむけて、本学教職員の国際化への共通理解を図るため、国際シンポジウムと講演会を開催しました。

国際シンポジウム「アジアにおける医学教育と研究の展開」を4月26日に開催しました。台湾大学医学部のYen-Hsuan Ni 教授、国立シンガポール病院/糖尿病・歯周病センターのChee Hoe Kit センター長をお招きし、アジアトップレベルの医学教育、次世代医療人教育の取組を紹介し、高齢社会における次世代医療人をアジアの大学と連携して育成する第一歩としました。

また講演会は、3月5日岡山大学グローバル・パートナーズの廣畑聡副センター長より、「大学グローバル化の現状と展望－岡山大学の例－」と題して、大学グローバル化の総論及び大学としての取組み、問題点对応の事例についてご教授いただきました。さらに、新たな国際化の取り組みとして、6月14日、国際バカロレア認定校岡山理科大学附属高校の田原誠校長より、医学部をはじめとした医療教育にかかわる学部での国際バカロレア入試について、導入事例をもとにご講演をいただきました。

単なる異文化体験、交流ではなく、医療人としての専門性を高め、職業人として自分が持つ知識や技術がどのように役に立つのかをしっかりと自覚し、国際社会に貢献できる次世代医療人の育成を目指します。



Yen-Hsuan Ni教授(左)と大槻学長



左から：鈴木教授、ミネソタ州立大学マンケート校Peter Hans教授、大槻学長、原助教



Yen-Hsuan Ni教授



Chee Hoe Kitセンター長



廣畑副センター長



田原校長

22 第57回大阪母性衛生学会・学術集会 竹村喬記念奨励賞の受賞

第57回大阪母性衛生学会・学術集会で発表した研究「職権一時保護における院内システムの構築を目指して」が竹村喬記念奨励賞を受賞致しましたので報告します。

職権一時保護とは虐待を受けている子ども、もしくは受ける可能性のある子どもを両親などの関係者の意思に反して強制的に保護を行う制度のことで児童福祉法と児童虐待防止法によって決められています。これまでは職権一時保護を行うにあたり産科病棟のみでの対応でしたが、入院されている他の患者さんの安全面の確保や対応スタッフの負担面から問題点が多く、改善する必要があります。そのため虐待防止委員会との連携を図り、安全対策を含めた検討の上、産科病棟のみでの対応ではなく、産科以外の医師や患者サービス課・警備員などの多職種との更なる連携システムの基盤を構築しました。そのことで病院としての対応を行えるよう人員配置や役割分担を系統的に実施することにつながりました。今後も虐待防止のための対応に努めていけるよう多職種連携を通し、更なる改善を行っていききたいと思います。

【協同研究者】

中山恵穂(助産師)、南部真央(助産師)、英都貴子(師長・助産師)、宮田郁(師長・精神看護専門看護師)、久下亜樹子(入退院支援室PSW)



23 大阪医科大学研究拠点育成奨励助成事業 「多職種連携教育とシミュレーション教育法」 第7回講演会(関西医科大学西屋克己先生)報告

2019年7月16日に新講義実習棟P101で「多職種連携教育とシミュレーション教育法」に関する第7回講演会を開催しました。今回は、関西医科大学医学教育センターの西屋克己先生にお越しいただき「多職種連携教育とアクティブラーニング」に関する総論をお話いただきました。ICT等を活用したアクティブラーニングに造詣の深い西屋先生のご講演は非常に意義深いものでした。本学のFaculty Development(FD)講習会および第82回医学教育ワークショップとして認定された本講演会には、医学部看護学部教員、病院職員、事務職員、学生だけでなく、大阪薬科大学からも多くの参加をいただきました。この講演会は、2019年度の大阪医科大学研究拠点育成プロジェクトである「シミュレーションを活用した多職種連携教育支援体制の構築～医看薬融合教育のユビキタスな普及を目指して～」の一環として行いました。

本学が多職種連携教育においても全国をリードできるように今後とも講演会の継続開催をしていきたいと思っています。



24 臨床講堂棟・病院5号館他 解体工事安全祈願祭を挙行

2019年6月21日(金)10時より、臨床講堂棟1階にて野見神社神職による安全祈願祭が執り行われました。内山和久病院長をはじめ病院関係者並びに日揮株式会社、清水建設株式会社が列席し、解体工事の安全を祈願しました。

現在の病院建物の大部分は、1959年から1981年の間に建築され、狭隘化や老朽化が問題となっており新本館の建築が急務となっております。

今回の解体工事は、大阪医科大学創立100周年記念事業のメインプロジェクトとして建築する病院新本館A棟の建設用地を確保するものです。A棟完成後、更に隣の中央診療棟を解体してB棟を建築する予定で、全工事の完了は約9年後です。

いよいよ大阪医科大学創立100周年記念事業のメインプロジェクトがスタートします。

工事中は、患者さんを始め関係者の皆様には、長期にわたり多大なご迷惑をおかけしますが、安全第一に工事を進めてまいりますのでご理解の程宜しくお願いたします。



25 看護学部広域統合 (慢性期成人看護学領域)

実習：沖永良部島(離島)実習

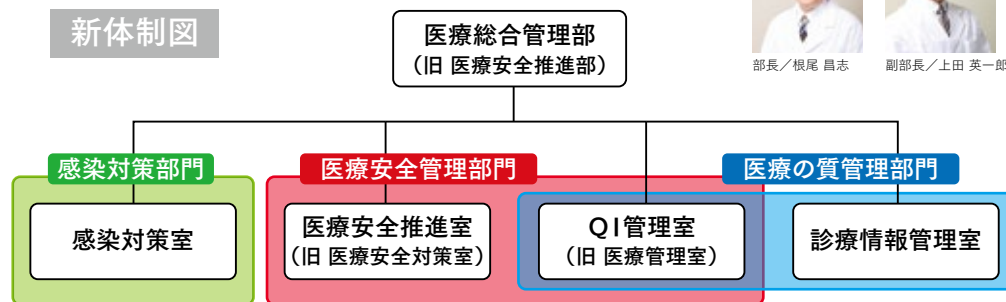
今年で、6回目となる4年生の慢性期成人看護学領域のプログラムの一つである沖永良部島での離島実習(6/17-6/20)が終了しました。

大阪医科大学病院や高槻周辺での実習を主とする学生にとって、離島実習は、地域の人々の生活、文化、環境など社会特性を理解し、社会における看護の役割や位置づけを学ぶ上で重要な実習プログラムの一つと考えます。島で唯一の病院機能を持ち、島民の71.4%が受診する病院(132床)での実習は、高槻では経験できない目からうろこの連続です。例えば、看護職者は島民の生活をよく理解しているため、看護実践内容が非常に具体的であること、院内では当たり前のように、外来から病棟(新生児、手術室、集中治療等)と幅広く役割をこなし、チーム内では、堂々とリーダーシップを発揮していること等です。学生は「看護師は能力が高くないとだめだなあ。島民の健康を守ることは大切だ。実習楽しかった。」といます。離島実習は、都会にはない大切なものを経験させてくれます。貴重な学びを今後生かして欲しいと思います。



26 安全管理体制の再編成(医療総合管理部)

2019年4月から、医療総合管理部が立ち上がりました。これは、医療安全推進室(旧 医療安全対策室)、クオリティ・インディケーター(医療の質〔QI〕)管理室(旧 医療管理室)、診療情報管理室、感染対策室の4つの室を含み、総合的に病院の医療の質や安全の向上を目指していく部門です。社会に期待されている医療の質を保ち、国際的に通用する安全な医療を提供できるように組織改編が行われました。医療安全推進室とQI管理室が医療安全管理部門を、QI管理室と診療情報管理室が医療の質管理部門をそれぞれ担当します。ここに感染対策部門として感染対策室を加え、今まで以上に密となった各室の連携をバックに、特定機能病院ならではの高度な医療を安全に実践していきたいと考えております。



部長/根尾 昌志



副部長/上田 英一郎

医療安全管理部門

医療安全推進室、QI管理室

医療事故対策、安全体制の確保、医療安全研修会の実施
医療機器安全管理、医薬品安全管理
高難度新規医療技術導入、未承認新規医薬品の導入等

感染対策部門

感染対策室

感染対策と予防、感染サーベイランス、アウトブレイクへの対応、
抗菌薬の適正使用、感染症診療支援、感染対策研修会の実施等

医療の質管理部門

QI管理室、診療情報管理室

安全ラウンドによるIC記録の強化、ICカレンダーの導入と分析
日本病院会QIプロジェクト
カルテオーディット(診療録の監査)等

27 看護学部棟学生交流企画「七夕飾り」

今年からは校友会、各学年の総代・副総代と協力のうえ、看護学部・医学部学生交流会として七夕を企画し、実施いたしました。昨年より華やかな飾りとなりましたので、皆さん短冊をかけやすかったのではないかと思います。また、今年は合計149枚もの短冊がかけられており、たくさんの方に楽しんでいただくことができました。学生のみでなく、先生方や事務の方も参加してくださいました。この期間は、夏休み前ということもあり、学生にとっては前期試験の準備や就職試験等大事な時期でもあり、短冊には卒業祈願、国家試験合格祈願など本学らしい内容も多く見られました。期間中は、七夕飾りの話題で盛り上がるなど少し和やかな雰囲気もあったので、学生間の季節を感じた交流という目的も達成できたと考えております。少しずつではありますが今後もこのような学生交流イベントを続けていきたいと思っております。



28 スーパースマートホスピタル構想コンペ表彰式

大阪医科大学創立100周年(2027年)に向けて現在進行中の病院新本館の建築に向けて、病院全体の運用に係る「医療・看護・施設」など、病院の※基本方針に基づいた自由な視点によるアイデアを募る「スーパースマートホスピタル構想コンペ」が行われました。

エントリー総数は68件、提案書の提出は52件にも及び、一次審査(書面)と二次審査(プレゼンテーション)が行われ、結果は以下の通りとなりました。

ご参加いただきました皆様におかれましては、誠にありがとうございました。



※基本方針…超スマート医療を提供する大学病院

超スマート医療(施設)…AIを積極的に活用するとともに高い機能を持つ設備を備え、医師・医療関係者が診断・検査・治療に高い技量を発揮し、快適な環境で最高の医療を施せる病院を意味しています。

	テーマ	代表者名
理事賞	該当なし	
優秀賞	One and onlyな小児病棟	藤原 憲太
	IoTによる医療従事者の働き方改革、生産性向上について ～地域医療・予防医療時代に先駆けて～	長谷川 想
アイデア賞	病院と患者をつなぐテレメディスン医療圏	川端 信司
佳作	唯一無二のお別れ	新田 雅彦
	入院を前提とした患者に対する迅速なスマート診療	河田 了
	"スマートフォンとAIロボットを活用した患者さんホスピタリティの向上 ～職員様のワークライフバランス向上にむけて～"	梶 睦恵
	セキュリティ強化・衛生対策への顔認証活用	岡田 裕善
	手話通訳者の設置及びタブレット等通信機器による補助システムの構築	長尾 優子

29 第95回医学会総会・ 春季学術講演会

第95回医学会総会及び令和元年春季学術講演会が、6月12日に新講義実習棟P101において開催され、研究奨励賞授賞式と特別講演が行われました。

第15回研究奨励賞 他雑誌部門

Delta-like 3 is silenced by HBx via histone acetylation in HBV-associated HCCs
(B型肝炎ウイルス肝炎関連肝細胞癌において、DLL3遺伝子はHBxによりヒストンアセチル化を介してサイレンシングされる)

一般・消化器外科学教室
助教(准) 濱元 宏喜

○特別講演

「ウイルス性肝炎診療の変遷 平成とC型肝炎」

看護学部

教授 津田 泰宏

「小児医学教育の展望 ―卒前教育から大学院教育まで―」

医学部 医学教育センター

専門教授 瀧谷 公隆

「進化する乳癌診療 ―増え続ける乳癌に挑む―」

医学部 乳腺・内分泌外科学寄附講座

特任教授 岩本 充彦



30 第4回高槻市民 いきいき健康講座を開催しました

私立大学研究ブランディング事業として、7月20日、本学と高槻市、高槻商工会議所、サンスター財団の共催で第4回高槻市民いきいき健康講座を開催しました。

開会の挨拶の後、講演1として、医師の立場から近畿大学の伊木雅之教授に「いつまでも丈夫な骨でいるために」と題して、長年収集されたデータと実績をもとに、いつまでも健康に動くため、体を支える骨の老化をおさえることが高齢者にいかに大切であるかを、科学的な知見とユーモアな話題を交えて、わかりやすく講演していただきました。続いて講演2として、歯科医師の立場から東京都健康長寿医療センター研究所の平野浩彦歯科口腔外科部長に「老いへの予防は”オーラルフレイル対策”にあり」と題し、口腔健康の維持が大切で、オーラルフレイルの対策を行うことが心身の健康維持、老いの予防に繋がることを、解りやすいイラストや動画を用いて講演いただきました。それぞれの講演後の質疑応答では、会場から多くの質問が出ました。当日は374名の方に来場いただき、本会場であった看護学部棟講堂は満席、中継会場もほぼ満席となり、とても盛況な講座となりました。



31 科研費応募奨励助成金 2019年度採択課題

科研費応募奨励助成金は、平成28(2016)年度からの3年間で14名の研究者に授与され、うち6名の方が翌年度の科研費に採択されています。2019年度からは、これまでの若手研究に加え、新たに基盤研究(A)(B)についても助成の対象となりました。

今年度は若手研究9課題が選定され、授与式において小野富三人研究支援センター長から採択通知書が授与されました。先生方は少々緊張の面持ちで通知書を受け取った後、今回の反省点や来年度に向けての目標について研究支援センター長との懇談の中でお話をされました。若手研究は勿論ですが、これまで本学からの申請が少ない基盤研究(A)(B)についても、積極的に科研費申請をしていただき、残念ながら採択に至らなかった場合には、翌年度に再チャレンジをするため本助成制度を有効に活用していただきたいと思います。



2019年度 科研費応募奨励助成金 採択者

氏名	所属/職名	研究テーマ
平田 有基	内科学Ⅱ/助教(准)	炎症性腸疾患に合併する血栓症のメカニズム解明
大住 渉	一般・消化器外科学/助教	TM-α 製剤の抗腫瘍効果研究～抗凝固炎症機能の応用～
藤城 高志	整形外科/助教	前方注視調節が頭蓋頸椎アライメントに与える影響の解明
樋上 容子	看護学部/講師	多職種による在宅認知症者の睡眠障害症状マネジメントの教育ツール開発
善方文太郎	生理学/助教	筋タイプ特異的骨格筋型アセチルコリン受容体の機能解析
近澤 幸	看護学部/助教	新生児・乳児期の沐浴・入浴時の事故を防ぐ母親と家族のための教材開発と評価
原 明子	看護学部/助教	異文化理解支援教育プログラムの開発のための基礎研究
坂口 翔一	微生物学教室/助教	ネコモルビリウイルスの感染動態と宿主因子の解明
吉田 誠司	小児科学/助教	起立性調節障害療育キャンプの心理面・自律神経機能への影響評価

32 研究拠点育成奨励助成金 2019年度採択課題

研究拠点育成奨励助成金は4年目を迎え、これまでに採択された課題は2年間又は3年間の集大成として6月24日の成果報告会にて本学発の研究拠点活動の成果について、医学教育センター講師(准) 駒澤伸泰先生、研究支援センターTR部門 副部門長 谷口高平先生、薬理学教室 教授 朝日通雄先生、口腔外科学教室 教授 植野高章先生から報告をしていただきました。

2019年度は心機一転、基礎から臨床への橋渡しを目指す「Aタイプ」と研究拠点の形成や事業化・実用化を目指す「Bタイプ」に分けて公募を行いました。今年度の応募はAタイプ、Bタイプあわせて10課題ありましたが、研究支援センター運営委員会による厳正なる選考の結果、Aタイプ7課題が採択されました。授与式では小野研究支援センター長から研究代表者に採択通知書が授与された後、集合写真の撮影、センター長との懇談が行われました。

今年度採択された研究課題が今後、本学の新たな研究拠点育成の礎となっていくことを期待しております。



2019年度 研究拠点育成奨励助成金 採択者

氏名	所属/職名	研究テーマ
田中 智人	産婦人科学/講師(准)	バイオバンク試料を利用した臨床腫瘍移植モデルによる細胞外小胞の大規模解析
山下 愛美	生理学/助教	人工受容体による重症筋無力症新規治療法に向けた基礎研究
朝日 通雄	薬理学/教授	ヒトiPS細胞を用いたアンメットニースの高い疾患の病態解明と新規治療薬の開発
猪俣 陽介	一般・消化器外科学/大学院生	難治性消化器・乳癌に対する医工薬集約型microRNA 創薬研究
宮武 伸一	がん医療総合センター/特別職務担当教員(教授)	ホウ素中性子捕捉療法の研究拠点形成
伊藤 ゆり	研究支援センター 医療統計室/室長(准教授)	診断～治療後の生活習慣及び患者報告アウトカム(PRO)収集体制の構築: バイオバンク・院内がん登録・生活習慣アンケート融合型データベース
駒澤 伸泰	医学教育センター/講師(准)	シミュレーションを活用した多職種連携教育支援体制の構築～医看薬融合教育のユビキタスな普及を目指して～



小児科学教室

教授 **芦田 明**

平成31年4月1日付で前任の玉井浩教授のあと、大阪医科大学小児科学教室教授に着任しました。

私は昭和63年に本学を卒業後、本学小児科に入局し、小児の腎臓病を専門に診療・研究に研鑽を積んでまいりました。

本学小児科は、私が専門とする小児腎臓病学をはじめ、血液、神経、循環器、内分泌、心身症、消化器、新生児、膠原病、アレルギーとほぼすべての小児疾患分野

をカバーする専門領域をもって発展してきました。小児に生じるあらゆる疾患に対して、高度でかつ専門的な治療を行うことができる体制を構築・維持しています。小児心臓血管外科など小児関連各科との連携を密に取りながら、病気の子どもの治療が当院にて完結できるよう全力で小児疾患に対応しています。

これからも子どもたちの健康と健やかな成長に少しでも寄与できるよう、本学小児科をさらに発展させるべく精進してまいります。

今後とも、我々小児科学教室をよろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和63年3月	大阪医科大学 卒業
平成2年4月	大阪医科大学大学院 入学 (専攻 小児科学)
平成6年3月	大阪医科大学大学院修了にて学位授与さる(専攻 小児科学)
平成6年4月	柏原赤十字病院 小児科 医員
平成7年5月	大阪医科大学 小児科学教室 助手
平成16年4月	大阪医科大学 小児科学教室 学内講師
平成19年4月	大阪医科大学 小児科学教室 講師
平成19年4月	東京女子医科大学 非常勤講師 (腎臓小児科)
平成31年4月	大阪医科大学 小児科学教室 教授



放射線診断学教室

教授 **大須賀 慶悟**

令和元年7月1日付で総合医学講座放射線診断学教室の教授に着任しました。従来の放射線医学教室が、画像診断・核医学及びIVR(画像下治療)を担当する放射線診断学教室と、放射線治療を担当する放射線腫瘍学教室に分かれて新しくスタートします。

前職は、大阪大学大学院医学系研究科放射線医学、及び大阪大学医学部附属病院IVRセンターで、オンコロジー・脈管・救急・小児・移植医療など様々な分野で必要とされるIVRを専門にしておりました。主な研究テーマは、血管塞栓物質とその臨床応用で、肝癌・子宮筋腫など

の多血性腫瘍や、脈管奇形・オスラー病などの希少脈管疾患におけるIVRの役割を追求してきました。前職で培った経験を本学でも活かしながら、個別化医療や超高齢化社会など時代の流れに即した放射線診断学の診療・研究・教育に精進したいと思っております。

また、画像診断・核医学及びIVRは、病院全体の診療に深く関わっており、医療の質や安全の維持にも重要な役割を担っています。各診療科や中央放射線部とも意思疎通を図りながら、患者さんのニーズに応えていきたいと思っております。放射線診断学を通して本学の発展と次世代を担う人材の育成に全力で取り組む所存ですので、何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴

平成4年	大阪大学医学部医学科 卒業
平成4年	大阪大学医学部附属病院 研修医 (第一内科・放射線科)
平成6年	大阪労災病院 放射線科 研修嘱託医
平成8年	りんくう総合医療センター 放射線科 医員
平成12年	大阪大学大学院医学系研究科 放射線医学 助教
平成13年	Yale大学放射線科 客員助手
平成23年	大阪大学大学院医学系研究科 放射線医学 講師
平成26年	大阪大学医学部附属病院 IVRセンター長
平成30年	大阪大学大学院医学系研究科 放射線医学 准教授
平成31年	大阪大学医学部附属病院 病院教授
令和元年	大阪医科大学放射線診断学教室 教授



脳神経外科学教室

教授 **鱈淵 昌彦**

令和元年7月1日付で脳神経外科学教室の教授として就任いたしました。

太田富雄教授が昭和51年4月1日より、黒岩敏彦教授が平成12年4月1日より率いてまいられた伝統ある教室の第3代教授を拝命し、身の引き締まる思いです。

私は卒業後から今春まで、脳腫瘍や脳血管障害を中心として2,200件の手術に携わり、10年前からは、脳腫瘍、特に頭蓋底腫瘍の手術を多く手がけてまいりま

した。脳神経外科は、頭部外傷、機能的分野、脊髄疾患など、診療範囲は多岐に渡りますので、患者さんや家族との信頼関係構築はもとより、学内外におけるチームワークを大切にしていきたいと考えております。

当教室では優れた研究成果を多数挙げていますので、これに私が行ってきた微小解剖や脳腫瘍の遊走能など、新たな視点からの研究も加えたいと思っています。

人こそが宝でありますので、人材育成に重点に置き、卒前・卒後教育に邁進する所存です。何卒、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

略歴

平成3年	札幌医科大学 卒業
平成7年	札幌医科大学大学院 卒業
平成7年	札幌医科大学 脳神経外科
平成8年	帯広脳神経外科病院・白石脳神経外科病院・旭川脳神経外科病院
平成12年	札幌医科大学 脳神経外科 助教
平成14年	Duke大学 脳神経外科学講座 頭蓋底微小解剖研究室 留学
平成17年	星が浦病院・KKR札幌医療センター
平成18年	帯広厚生病院 脳神経外科 医長・部長
平成21年	札幌医科大学 脳神経外科講座 講師
平成24年	札幌医科大学 脳神経外科講座 准教授
令和元年	大阪医科大学 脳神経外科学教室 教授

放射線腫瘍学教室

教授 二瓶 圭二



令和元年8月16日付で総合医学講座放射線腫瘍学教室の教授に就任いたしました。これを機に、放射線医学教室は放射線腫瘍学教室と放射線診断学教室に発展的に改組され、協力体制を強化しながらさらに専門性を高めた診療・教育・研究に邁進してまいります。

放射線治療は言うまでもなく三大がん治療のひとつであり、早期から進行癌まで、また症状緩和から根治治療まで、がん治療のあらゆる段階に重要な役割を担います。学内外のこれらのニーズに的確に対応するため、診療体制の整備・強化に尽

力いたします。次世代を担う専門医の教育、そして高精度かつ安全な治療を提供するために医学物理士などのさらなる人材育成・配置が不可欠と考えています。

私は研修後ほどなくして国立がん研究センター東病院に着任し、がんの臨床試験、集学的治療、陽子線治療に従事いたしました。その後、がん・感染症センター都立駒込病院にて強度変調放射線治療や定位放射線治療などの高精度放射線治療の普及に尽力いたしました。今回20年ぶり出身地である関西に戻り、新たな環境でこれまでの経験を存分に活かして本学の発展および地域医療に貢献したいと考えております。どうぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴

平成6年	京都大学医学部 卒業
平成6年	京都大学 放射線科・核医学科 研修医
平成7年	日本赤十字社和歌山医療センター 放射線科
平成10年	京都大学大学院 入学 (腫瘍放射線科学分野)
平成11年	国立がん研究センター東病院 放射線部放射線治療室
平成17年	国立がん研究センター東病院 臨床開発センター粒子線医学開発部 照射技術開発室
平成18年	京都大学医学博士
平成22年	京都大学放射線治療科 陽子線医長併任
平成23年	がん・感染症センター都立駒込病院 放射線診療科治療部医長

OMC NEWS

予告

2020年夏

大阪医科大学学報は、
デジタルパンフレット版のみの発行となります。

自然環境に配慮して

大阪医科大学学報は、2020年夏からWEBやスマートフォンで閲覧可能なデジタル版のみの発行へ移行します。これにより、学内外を問わず、より多くの人へと大学の情報を発信できるようになり、記事もアーカイブ化され、読みたい記事の検索もしやすくなりますのでご期待ください。

デジタルパンフレットは大阪医科大学ホームページの学報掲載ページから読むことができます。

※スマートフォンでお読みになる場合、アプリのダウンロードが必要です。

学報掲載ページ

<https://www.osaka-med.ac.jp/about/pr/index.html#hdg6>


学報の発行通知を希望される方は、右記QRコードから空メールを送信してください。
学報発行の時期になりましたら、メールにてご連絡いたします。

※ご登録いただいたメールアドレスは、学報発行のお知らせ以外で使用はいたしません。



親となる人々を支える看護で、
虐待予防につながる



育児に悩みや不安を抱える人々への支援が、社会的課題となっています。母性は生まれつき備わったもので母親なら子育てはうまくできて当然という周囲の思い込みも、その背景の一つにあります。佐々木綾子教授は母性看護学・助産学などを専門領域にされ、少子化、虐待予防対策につながる「親となる人々を支える看護」に関する研究に取り組まれています。脳科学で可視化した親性（母性・父性）の研究成果は、メディアに取り上げられ大きな反響を呼んでいます。

今回の訪問先

看護学部

教授 佐々木 綾子

—— どうして助産師を目指されたのですか。

私の学生時代はアクティブラーニング手法を取り入れたような授業はなく、講義を聴いているだけの授業がほとんどでした。その中で母性看護学の講義になぜか興味をひかれたことがきっかけです。大学卒業後、助産師養成を行っている専攻科に進学し、卒業後は助産師として12年間の臨床経験を積みました。

—— 教育研究の道に入られてからは、英国での体験が大きな転機になったとお聞きしています。

ロンドン大学での短期留学時助産師教育に参加し、大学関連の総合病院で分娩や帝王切開、産後の褥婦のケアを見学しました。それは私が経験してき

た分娩管理や助産ケアとは大きく違っていて衝撃を受けました。例えば、日本の助産師は分娩時の会陰保護技術に重きをおいていますが、英国では児を受けるだけ。帝王切開の際も、夫が手術室で見学し、その当時日本では必ず実施されていた児の口腔内吸引も行っていないでした。また、キャサリン



妃の出産報道で出産の当日や翌日に退院されることに驚かれた人も多いと思いますが、英国の産後の母親は早期退院します。代わりに地域担当の助産師などが家庭訪問を行いカバーしている場面も経験しました。

毎日同じことをやっていると、それがベストだと思いついてしまいがちです。英国の方法がすべて良いというのではなく、エビデンスに基づいた医療やケアを推進し、新しい研究成果を取り入れて見直すことの必要性を強く感じました。英国での体験が、今日の助産ケアの正確性の研究につながっています。

—— **主要研究テーマである「親となる人々を支える看護」に関する研究は、どのようなきっかけがあったのですか。**

きっかけは、「出産後、母親は育児ができて当たり前」という、周囲の声に悩む母親たちの存在です。つまり、母性は本能なのか否かということです。そこで、青年期の男女に赤ちゃんとのふれあい体験を実施してもらい、体験前後で赤ちゃんの泣き声を聞いた時の脳の変化をfMRI（機能的磁気共鳴画像）で調べる研究に取り組みました。その結果、体験後は泣き声を聞いた時「どうして泣いているんだろう」「早く抱っこしてあげたい」など、共感性をつかさどる脳部位が活発化していることが分かりました。今まで見ることのできなかつた母性や親性を可視化することができました。

—— **研究成果はメディアで紹介され、大きな反響がありました。**

母性や親性は生まれながらにもっているものではなく、育児をする中で育まれるものであることを脳科学で裏付けることができました。だから、最初からうまくできなくても大丈夫ですよ、一人で悩まず周りの助けを借りてくださいというメッセージが、全国の多くの育児期の母親に安心感を与えた

のだと思います。私自身は、研究で誰にでも分かるよう「可視化」することの大切さを認識する機会となりました。

—— **その研究を虐待予防・支援へ発展させておられます。**

虐待の要因は望まない妊娠、支援の不足、複雑な家族関係など様々です。脳科学的にも「前頭前野」が未熟な新生児、乳幼児の育児は親にとり本当に大変なことです。しかし、大変さをやわらげる方策はあります。

一つは親性準備（知識・技術・心がまえ）です。これは、親になるずっと前の思春期から準備可能です。次に、母親とパートナー、家族にとってのよい出産体験です。そのためには正確な助産診断・ケアが必要です。三つめは、親になったら、「共同養育」「とも育て」を推進することです。そして親の大変さを子育て支援システムの利用に加え、周囲の人々、専門家のみならず、市民のだれもが応援することがあげられます。今後はこれらに関連した研究を進めたいと考えています。

高槻市が推進している「たかつき子育て応援団」の事業では、大阪医科大学附属病院、看護学部も参加機関となっています。

—— **学生へのおすすめの本は。**

福井大学子どものこころの発達研究センター友田明美教授の『子どもの脳を傷つける親たち』（NHK出版新書）です。マルトリートメント（不適切な養育）により、子どもの脳が傷つくことを脳科学の研究成果でコンパクトにまとめた本です。2019年6月に親の子どもへの体罰を禁止と児童相談所の体制強化を盛り込んだ「改正児童虐待防止法」「改正児童福祉法」が可決・成立しましたが、その根拠資料の一つとなりました。医療職として虐待や不適切な養育についての知識をぜひ持っていて欲しいと思います。



Profile

佐々木 綾子 SASAKI Ayako

高知女子大学（現高知県立大学）家政学部衛生看護学科卒業（看護師・保健師・養護教諭一種免許取得）。京大医学部医療技術短期大学部助産学特別専攻修了（助産師免許取得）、総合病院の産科で助産師として12年間勤務の後、福井大学大学院教育学研究科修了、福井大学医学部看護学科講師・准教授、2002年3月英国ロンドン大学King's Collegeに文部科学省在外研究員として短期留学。2008年大阪府立大学大学院博士後期課程修了（看護学）、2012年4月より大阪医科大学看護学部母性看護学・助産学領域教授。2015年「アドバンス助産師」認定

—— **最後に座右の銘と学生へのメッセージを。**

座右の銘は「がんばりすぎない 継続は力なり」。予測不能な変化の激しい時代です。力を抜いてがんばりすぎず、いろいろなことを継続することは確実に力になり、人生の糧にもなると実感しています。

今の国家試験は私が受けた頃より知っておくべき知識が「はんばない」です。いろいろな勉強法がありますが、一番の近道は授業に集中することだと確信しています。1年生の時から授業に集中することを継続していけば、必ず成果は出ると思います。



おすすめの本と、佐々木綾子教授の研究成果が紹介された番組のDVD。

研究助成金の内定・採択について (2019年7月3日現在)

第13回 ヤングリサーチグラント

(一般社団法人 日本泌尿器科学会)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
DNA複製ストレスを利用した治療法の確立	小村 和正 (泌尿器科学・講師)	50万円

2019年度 物質・デバイス領域共同研究

(物質・デバイス領域共同研究拠点(東北大学多元物質科学研究所))

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
動的・機能的構造解析に基づく銅含有アミン酸化酵素の機能改変	村川 武志 (生化学教室・助教)	3万円

平成31年度(2019年度) 腎疾患研究助成金

(公益財団法人 大阪腎臓バンク)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
腎移植におけるNAD ⁺ を用いた免疫寛容の誘導	上原 博史 (泌尿器科学教室・助教)	30万円
AKIからCKDへの予後予測バイオマーカーとしてのIL-24の機能解析	杉山 紀之 (解剖学教室・講師)	10万円

2019年度 研究助成金

(公益信託 成茂神経科学研究助成基金 受託者:三菱UFJ信託銀行株式会社)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
シナプス小胞内アセチルコリン充填量の決定機構の解析	江頭 良明 (生理学教室・助教)	50万円

平成31年度(2019年度) 研究助成

(公益財団法人 大阪アイバンク)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
網膜静脈閉塞症の病態解明:血管作動性因子の関与とその制御	喜田 照代 (眼科学教室・講師)	34万円

2019年度(第30回) 事業助成 助成費

(公益財団法人 フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
在宅高齢者の続発性リンパ浮腫への訪問看護介入リンパ浮腫ケアプログラムの活用可能性の検討	森本 喜代美 (大学院看護学研究科・博士後期課程・大学院生)	38万円

2019年度 医学系研究助成

(公益財団法人 武田科学振興財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
シナプス小胞内の神経伝達物質量を決定する機構の解析	江頭 良明 (生理学教室・助教)	200万円

○研究推進課から応募申請しました公募助成金等のうち、内定・採択を確認できたもの、及び研究者より直接内定・採択の情報提供のあったものを掲載しています。

大阪医科大学 「創立100周年記念事業募金」 活動について

2018年10月から大阪医科大学創立100周年記念事業募金のお願いを開始して以来、教職員や仁泉会、連携病院など、多くの方からこの募金活動にご協力をいただいております。心より厚く御礼申し上げます。

現在、外来受診や入院あるいはお見舞いなど、さまざまな理由で本院にお越しになる皆様に、本記念事業募金の趣意をご理解いただくことを目的としたポスターとリーフレットを作成し、少しでも多くの皆様にご覧いただけますよう、これらを本院の各場所に掲示や配置しています。

この募金活動はまだ初年度を迎えた、今後息の長い活動です。

これからも大阪医科大学創立100周年記念事業募金にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



■募金の募集要綱

- 1. 募金名称** 大阪医科大学「創立100周年記念事業募金」
—「大学病院新本館」建築—
- 2. 募金の目的・使途** 寄付金は、大学病院新本館建築に係る資金の一部、並びに学生支援体制の充実を図ることを目的に募集します。
- 3. 募金目標額** 10億円
- 4. 募金期間** 2018年10月～2027年3月
- 5. 寄付の種類** 現金、遺贈、現物寄付、相続財産
*現金以外のご寄付の方法については、募金推進本部にお問い合わせください。
- 6. 金額** 個人は1口1万円、法人は1口10万円としておりますが、できるだけ複数口のご協力をお願いします。なお、法人からのご寄付の場合は、1口未満もありがたくお受けいたします。
個人・法人いずれのご寄付の場合も、分割での寄付も可能ですのでお申し出ください。

■特典について

- 1. 顕彰**
個人5口以上、法人5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰させていただきます。
- 2. 無料健診券の進呈**
個人10口以上、法人5口以上ご寄付いただいた方には、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の無料健診券を進呈させていただきます。
健康科学クリニックでの無料健診の特典は、個人の場合はご寄付いただいたご本人様に限り、また法人の場合は法人が指定される方1名様に限り対象です。
個人、法人いずれの場合も、この特典の有効期間は寄付申込日から1年以内とさせていただきます。

■大阪医科大学「創立100周年記念事業募金」へのご寄付（寄付金申込者）

2019年4月1日から2019年6月30日までの間の寄付金入金件数は59件、金額は20,990,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、募集当初から2019年6月30日までの間の寄付金件数は368件、金額は82,821,574円です。

- 岩井 一 ●大東 清四 ●西山 裕子 ●岩崎 勝義 ●駒澤 伸泰 ●桑内 義和 ●新井 一雄 ●福嶋 康起
- 松川 英雄 ●山崎 隆司 ●伊藤 正尚 ●石崎 公二 ●北村 孝文 ●福本 敏子 ●堂坂 忠弘 ●黒岩 敏彦
- 間利子 秀子 ●金子 健一 ●小野田 哲也 ●中林 愛晶 ●古谷 榮助 ●鈴木 正三 ●西村 保 ●中村 公平
- 子林 孝司 ●清木 康雄 ●井尻 好雄 ●内本 繁 ●岡島 秀行 ●藤吉 妙子 ●宇都宮 正 ●粟飯原 輝人
- 後藤 和子 ●高井 真司
- 高槻都市開発株式会社 ●川村義肢株式会社 ●コフジ物流株式会社 ●株式会社日経サービス ●医療法人恒昭会
- 医療法人沖縄徳洲会榛原総合病院 ●株式会社ライトアーム ●医療法人仁泉会阪奈病院 ●コスモ建物管理株式会社
- 株式会社デイリーフーズ ●匿名 15件 (順不同、敬称略)

■大阪医科大学基金へのご寄付（寄付金申込者）

2019年4月1日から2019年6月30日までの間の寄付金入金件数は3件、金額は300,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、募集当初から2019年6月30日までの間の寄付金件数は906件、金額は105,640,200円です。

- 医療法人毅峰会吉田病院 (敬称略)

※毎年継続したご寄付の申し込みは「大阪医科大学基金（通称・フレンズ基金）」で承っております。なにとぞご支援賜りますようお願い申し上げます。

■教育環境整備事業募金へのご寄付（寄付金申込者）

2019年4月1日から2019年6月30日までの間の寄付金入金件数は13件、金額は30,500,010円です。ここに寄付申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、2019年度の寄付金件数は13件、金額は30,500,010円です。

- 神島 俊子 ●武田 靖 ●徳岡 武義 ●清水 文子 ●河野 哲男 ●酒井 圭子 ●佐野 晃司 ●匿名 6件 (順不同、敬称略)

ご寄付の申込方法

■インターネット <https://www.osaka-med.ac.jp/deps/bokin/>

■募金推進本部までお電話ください

お問い合わせ先

大阪医科大学 募金推進本部
TEL：072-684-7243（直通） FAX：072-681-3723



高槻中・高だより

大阪医科大学との高大連携事業 「基礎医学講座」

大阪医科大学との高大連携協定に基づき「基礎医学講座」を開講しました。今年で4年目となる本講座は、医学系大学への進学を志す生徒を対象に、大学入学までに医学の基礎的内容を学ぶことを通して、進路に対する意識を高め、医師の役割・使命、倫理観など医師としての素養を高めるために実施しております。高校1・2年生の73名が、放課後、全8回(1回90分)の講義を大学で受講しています。



■ 基礎医学講座 (当初予定)

回数	実施日	担当教室	講師・テーマ
第1回	6月7日(金)	生理学	小野 富三人 教授 「脳と神経の働き：動く、眠る、見る」
第2回	6月14日(金)	衛生学・公衆衛生学	神谷 訓康 講師 「予防医学の視点」
第3回	6月21日(金)	微生物学	坂口 翔一 助教 「ウイルスと動物の意外な関係」
第4回	6月28日(金)	法医学	鈴木 廣一 教授 「事実と科学：修羅の法廷」
第5回	9月6日(金)	解剖学	近藤 洋一 教授 「解剖学への招待」
第6回	10月4日(金)	病理学	(講師未定) 「病気の成り立ち」
第7回	10月25日(金)	薬理学	朝日 通雄 教授 「くすりは体に何を？」
第8回	11月1日(金)	生化学	福井 健二 助教 「遺伝子修復と病気」

大阪薬科大学との高大連携事業 「基礎薬学講座」

大阪薬科大学との高大連携事業「基礎薬学講座」が2年目を迎え、今年もスタートしました。平成29年度中学入学生から共学となり薬学系への進学希望者が増加していることから、キャリア意識を高めるとともに、薬学だけでなく科学全般を学ぶ意欲の向上や、日頃の授業の重要性を認識する場ともなっていると考えています。本講座は中学2年生以上が対象ですが、第1回は夏休み中に大阪薬科大学研究室で実施予定の「サマーサイエンスプログラム」の説明会を兼ねて行ったところ、中学1年生を含む129名が出席しました。



■ 基礎薬学講座 (当初予定)

回数	実施日	分野	講義担当者・テーマ
第1回	6月6日(木)	化学・生物	藤森 功 教授 (病態生化学研究室) 「肥満を制御するー肥満を知って、肥満を制御する薬剤を開発するー」 サマーサイエンスプログラム説明会
第2回	6月11日(火)	製剤	戸塚 裕一 教授 (製剤設計学研究室) 「粉と薬の身近な関係ー薬は設計された粉だと知っていますか?ー」
第3回	6月18日(火)	衛生	佐久間 寛 准教授 (環境分子生理学研究室) 「有害化学物質から(生命)を衛(まも)るには?」
第4回	9月18日(水)	薬理	大喜多 守 准教授 (病態分子薬理学研究室) 「薬はなぜ効く、なぜ効かない」
第5回	10月30日(水)	臨床	内田 まやこ 講師 (臨床薬学教育研究センター) 「薬剤師のしごと」

私学経営研修会が本校を視察

全国の私立学校の理事長、校長、副校長・教頭、事務長等の管理職が参加する私学経営研修会(一般財団法人日本私学教育研究所主催)が大阪で行われ、プログラムの一つとして本校視察の機会が設けられました。6月7日午後に約40名が来校され、コナコピアホールにて工藤剛校長がご挨拶と学校紹介をいたしました。

その後、図書館及びサイエンスストリート(理科教室群)を見学いただき、GSコース及びGAコースの課題研究授業を視察いただきました。最新施設とICTを活用した生徒の探究活動を目の当たりにした参加者からは多くの質問が寄せられました。また、本校の大きな特色である医科大学・薬科大学との教育活動の密接な連携についても高い関心が寄せられました。

学校・入試説明会、図書館見学会

日 時	女子向け	10月12日(土)	午前9時30分~11時30分
	第1回	10月12日(土)	午後2時~4時
	第2回	11月9日(土)	午後2時~4時
場 所	本校体育館		
内 容	本校の教育内容について、学校生活について、生徒によるプレゼンテーション(第1回・第2回のみ)、2020年度入試について、図書館見学		
その他	申込みは不要です。上履きをご持参ください。		

詳しくは、本校ホームページ(<https://www.takatsuki.ed.jp/>)をご覧ください。

※内容は都合により変更となる場合があります。



大阪薬大だより

シーナカリンウィロート大学から留学生が来日

大阪薬科大学国際交流基金助成事業の一環として、タイのシーナカリンウィロート大学から留学生が2名来日しました。2019年6月17日(月)～7月26日(金)の間、本学の製剤設計学研究室と生体分析学研究室に1名ずつ配属され、学生と共に研究に従事しました。



学内で行われた留学生とのランチの集いの様子



茶道部にて記念撮影

「ホームカミングデー」を開催

2019年6月23日(日)に大阪薬科大学同窓会との共催で第12回ホームカミングデーを開催しました。本年は昭和45年および平成2年卒業生の方々をご招待し、学内ツアーや特別講演会、懇親会を実施しました。学内ツアーでは、薬用植物園やD棟など、現在のキャンパスの様子を見学し、特別講演会では、本学薬学教育研究センター宮崎誠教授より「近頃の薬物動態学」をテーマに講演があり、終了後は学生食堂にて懇親会を行い、卒業生間での親睦を深めました。



新任教授紹介



駒野 淳 感染制御学研究室 教授

2019年4月1日付けで感染制御学研究室を担当することになりました駒野淳と申します。皆様方にこの場を借りてご挨拶申し上げます。

2018年度に抗菌薬適正使用加算が新設され、医療現場で薬剤師のプレゼンスがより求められるようになりました。小職は感染症を中心に行政研究組織や医療現場で研鑽を積んで参りました。この経験を生かして学生教育・研究に全力を尽くす所存です。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平野 智也 医薬分子化学研究室 教授

2019年4月1日付けで医薬分子化学研究室に着任しました平野智也と申します。

これまで、東京大学大学院薬学系研究科で博士の学位を取得後、カリフォルニア大学サンフランシスコ校での博士研究員を経て、東京医科歯科大学 生体材料工学研究所に助教、准教授として勤務してきました。その間、蛍光センサーなどの光機能性分子、ヒストン修飾酵素阻害剤などの医薬品候補化合物の開発を行ってきました。本学においては、光を利用した医療に用いる分子なども含めた、様々な分子の開発研究を行うとともに、医薬品の作用を分子レベルで理解するための教育を行っていきたくと考えています。よろしくお願いいたします。

本学学生が学生優秀発表賞を受賞

2019年3月20日～23日に開催された日本薬学会第139年会において、本学学生が学生優秀発表賞を受賞しました。

【受賞者】



大学院
薬学研究科薬学専攻
博士課程 2年次生

野上 聡
(製剤設計学研究室)



大学院
薬学研究科薬学専攻
博士課程 2年次生

植田 智裕
(製剤設計学研究室)



薬学部薬学科
6年次生

池田 有快
(生体分析学研究室)

Team 大阪医大の 現場力

vol. 15

大阪医大のチームの一員である
各部署をご紹介します。

▶ 臨床研究センター

早期開発臨床研究の 活性化を目指して



当センターは、新しい薬や医療機器の迅速な開発を倫理的かつ科学的に実施して信頼性の高いデータを提供し、より良い医療をより早く患者さんに提供することを可能とすると同時に、臨床試験に精通する医療人を育成することを目的として2000年4月に設立されました。皆様のご協力を頂きながら多くの新薬の治験（人における試験を一般に「臨床試験」といいますが、「くすりの候補」を用いて国の承認を得るための成績を集める臨床試験は、特に「治験」と呼ばれています。）を施行し、国内における新薬開発に精通した施設としてその地位を確立し現在に

至っております。

この間に医学・分子生物学の進歩もめざましく、病気の原因が次々と明らかにされ、その治療法も日進月歩の勢いで開発されています。また経済・文化のグローバル化が進んでいるのと同様に、新薬開発の分野でも我々の予想を超える勢いでグローバル化が進んでいます。すなわち施設（大学・病院）、地域、国の垣根を越え連携して治験・臨床試験が進められており、新薬の臨床開発は単独施設のみでは困難と言えます。当センターも、この流れに対応し、さらなる効率的な治験実施体制の整備を行い、臨床治験センターから2013年6月に“臨床研究センター”へと改称いたしました。治験は国に新しい薬や医療機器の承認を得ることを目的として行われる臨床試験です。新薬や医療機器の開発プロセスにおいて、ヒトに用いた上で有効性と安全性を確認する必要があります。このため、患者さんをはじめ多くの方々

にご協力を頂かなくてはなりません。臨床研究センターは、患者さんの権利を尊重し倫理性を保った治験・臨床試験が行えるよう活動しております。治験コーディネーター（CRC; Clinical Research Coordinator）をはじめとする熟練したスタッフが患者さん、先生方をサポートします。3年連続その質の高さからグローバルより表彰を受けた強者CRCもいます。BNCTによる医師主導治験のサポートや特定臨床研究への支援など各分野のプロフェッショナルがそろう大阪医科大学病院の強みを十分にいかし、治験・臨床試験など様々な先端的臨床研究の活性化の一助になればと思います。皆様の健康を希求し、ここ北摂“高槻”から世界に向けて、新しい薬や医療機器の迅速な開発を支援して参ります。ご協力・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

文責：臨床研究センター
センター長・准教授 藤阪 保仁



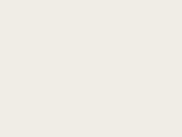
病院ボランティアグループ

ふれあい

病院ボランティアグループ「ふれあい」は、
患者さん志向のヒューマンサービスを目指しています。

12種類の活動を展開

- 正面玄関 ・ 初診案内・患者さん誘導ボランティア
- 病棟
 - ・ 患者さん図書ボランティア
 - ・ 季節の飾りボランティア
 - ・ 小児科病棟ボランティア
 - ・ 縫製ボランティア
 - （読み聞かせ・バルーンアート、ピアノ演奏会）
 - ・ 車椅子の空気圧定期点検ボランティア
- その他
 - ・ エコキャップボランティア
 - ・ グリーンボランティア
 - ・ 折り紙ボランティア（入院患者さんへの行事食用）
 - ・ 通信ボランティア
 - ・ ふれあい作品展示コーナーへの展示
 - ・ 収集ボランティア（古切手）



「ふれあい」の皆さんへのお声掛けやご支援をお願いいたします。 ボランティア支援室より

水彩画と私

— 千日草 —

絵・文 名誉教授 富士原彰



千日草（ヒユ科センニチコウ属）

小さい花を沢山球状に集めた色鮮やかな紅色の頭状の花。熱帯地方原産の外来種、江戸期に観賞用として渡来する。花期は長く、夏から秋、季語は夏。

田んぼの水がなくなり、
ひびわれしている！

27日連続の雨日、漸く晴れ日を迎えたが朝から30℃を超える猛暑。うるさいほど蝉の鳴き声、連れの老犬は、口をあげ、「はあく、はあく」と長い舌を突き出して、田んぼの畦道を歩いていく。やたら雑草が生い茂る休耕田が目立つ。水がなく、ひびわれしている稲田を目にする。

田植えの直後は、苗を根付かせるために、田の水を深くする。新しい葉が伸び始めたら、根に近い部分から茎数を増やすために水を浅くして土の温度をあげる。適切な茎数になったら、水を抜き、酸素を送り込み、栄養を根に与える。深く根をはらせ、穂が実り頭を垂れる時期に倒れないように、また収穫の時期、稲刈り機が入られるように土を固める。中干し、七月二十日前後に水を抜くので土用干しともいう。

米作りはひとえに水の管理にあるという。田の水の深さを変えることで、稲の成長、稲穂の着き具合、良い米ができるかの初めの勝負どころなので、百姓は田の水を入れたり、抜いたり、かなり慎重になる。

田んぼは、豪雨時は溜池として、また地下水を維持し、地盤沈下を防いでいる別の面があることを知ってか知らずか。

だれが種をまいたのか、荒れ果てた休耕田に咲く千日草、実に愛らしい。



大阪医科大学
OSAKA MEDICAL COLLEGE

大阪医科大学

<https://www.osaka-med.ac.jp/>

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
TEL:072-683-1221(代表)

【学部】

- 医学部医学科
- 看護学部看護学科

【大学院】

- 医学研究科（医学専攻）
- 看護学研究科（看護学専攻 [博士前期課程]）
- 看護学研究科（看護学専攻 [博士後期課程]）

大阪薬科大学 <https://www.oups.ac.jp/>

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号 TEL:072-690-1000(代表)

【学部】 ●薬学部薬学科（6年制） ●薬学部薬科学科（4年制）

【大学院】 ●薬学研究科（薬学専攻 [博士課程・4年制]）
●薬学研究科（薬科学専攻 [博士前期課程・2年制]）
●薬学研究科（薬科学専攻 [博士後期課程・3年制]）

高槻中学校・高槻高等学校 <https://www.takatsuki.ed.jp/>

〒569-8505 大阪府高槻市沢良木町2番5号 TEL:072-671-0001(代表)

【6年制完全一貫教育】 ●中学校:《GLコース》(1年・2年・3年)《GSコース》《GAコース》(3年)
●高等学校:全日制課程普通科《GLコース》《GSコース》《GAコース》

【文部科学省指定】 ●スーパーサイエンスハイスクール(SSH)
●スーパーグローバルハイスクール(SGH)